当院薬剤部の医療安全に関する取り組みについて

沼津市立病院　薬剤部
角田　一成

はじめに

　薬物療法が中心の医療において、医薬品が関連している医療事故の割合は非常に多く、どの医療機関でも原因の上位を占めていると思われる。

　医薬品関連の事故発生をゼロにすることは不可能だが、様々な努力でゼロに近づけることは可能であろう。

事故を減らすため、薬剤部で実際に行われている取り組みをいくつか紹介し、また現時点での問題点を述べ、今後どのようにしたら薬剤師がチーム医療の観点からも、医療安全にもっと深く関われるかを考えた。

沼津市立病院　角田一成　提供

医療事故のうち医薬品が占める割合

平成22年度	26％	（第1位）
平成23年度	32％	（第1位）
平成24年度（4月～9月）	25％	（第2位）

沼津市立病院　角田一成　提供

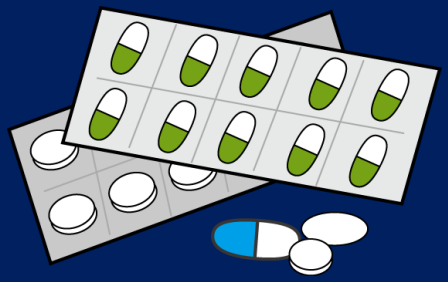
薬局内での取り組み

① 調剤ミスを減らすための薬品配置の工夫

② 採用品目への工夫

③ 薬剤部内でのPreインシデントの活用

④ 定期的な連絡会での情報共有



沼津市立病院　角田一成　提供

Preインシデントの活用

【Preインシデント】

月　　日　　薬品名（　　）

1）　計数調剤ミス	11）薬剤/薬袋合わせミス
2）　秤量調剤ミス	12）注射セット忘れ
3）　品目調剤ミス	13）配薬セットミス
4）　規格間違えミス	14）病棟払い出しミス
5）　分包ミス	15）コメント見落としミス
6）　異物混入	16）監査ミス
7）　ラベル貼付ミス	17）説明文書入れ忘れ
8）　記載ミス（転記ミス）	18）薬剤払い出し忘れ
9）　補充ミス	
10）落下・破損	

その他or備考

インシデント報告（済・未）　平常業務：黒　当直業務：赤

担当者が月別に集計

↓

問題点を洗い出し

↓

部内会議で注意喚起し

目標設定

↓

次月以降に効果を判定

沼津市立病院　角田一成　提供

薬剤関連オーダリングシステムでの取り組み

① 医師の入力ミスを減らす工夫

② 併用禁忌や薬品特有の注意事項の表示

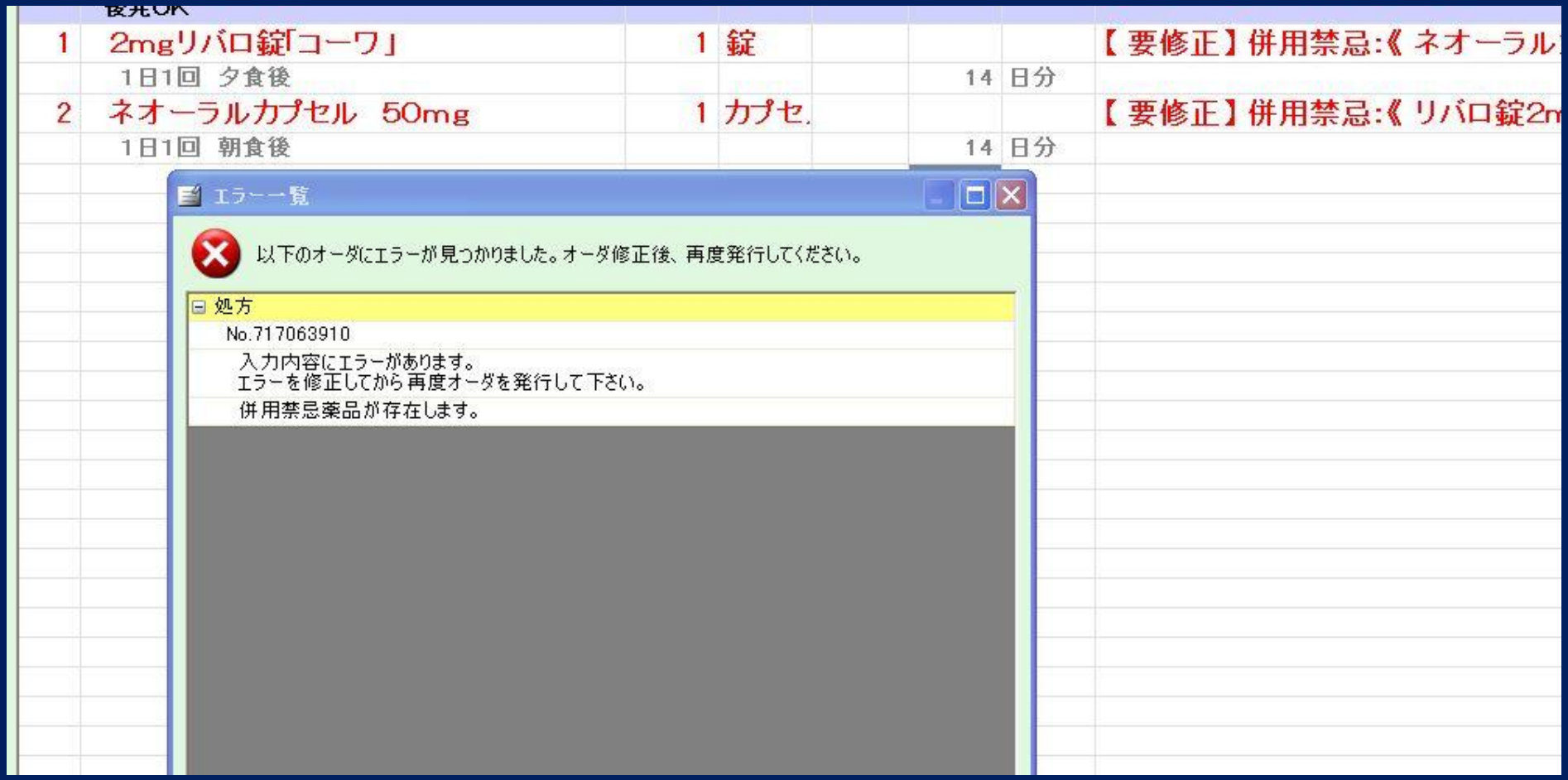
③ 要注意薬(抗がん剤)オーダーにおける工夫

沼津市立病院　角田一成　提供

入力選択ミスを減らす工夫

沼津市立病院　角田一成　提供

併用禁忌薬を処方させない工夫



沼津市立病院　角田一成　提供

病院内（主に病棟）での取り組み

① 薬剤管理指導業務

② 医薬品の安全使用のために必要な情報の収集と院内への発信

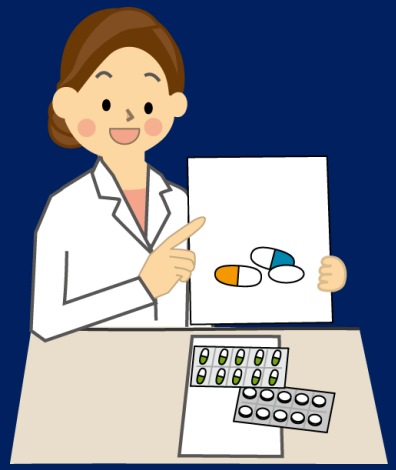
③ 必要により院内で医薬品関係の講義や勉強会を行う

沼津市立病院　角田一成　提供

薬剤管理指導業務

病院薬剤師の主要業務のひとつで、入院患者の薬歴管理と服薬指導を介して患者の薬物療法への認識を向上させ、患者から得られた情報を医師にフィードバックすることで、薬物療法を支援する業務

・ 現在９病棟に、薬剤師７名配置



沼津市立病院　角田一成　提供

ところが・・・

現在、医薬品関係の医療事故の多くは、薬局内ではなく、主に病棟で起こっている

↓

当然、二重チェックや指さし確認等の確認作業は、行っている

↓

病棟内は様々な業務が混在し、中断も多い

↓

沼津市立病院　角田一成　提供

医薬品に関しては薬剤師がチェックした方が間違えは少なくなるんではないか

↓

医療安全の面からも、病棟での薬剤師の活用は有効と考える

↓

しかし現在の体制では、薬剤師が病棟に居る時間は不定期

↓

沼津市立病院　角田一成　提供

現行の病棟業務だと、患者個人を対象としている感じが強く、病棟全体を見回してるとは言いづらい。また、時間的余裕も無い

でも、やっぱり医薬品関係のことは薬剤師に任せてほしい

そこで・・・

沼津市立病院　角田一成　提供

平成24年度診療報酬改定における「病棟薬剤業務実施加算」の新設（週1回）　100点

　病棟において、薬剤師が医療従事者の負担軽減及び薬物療法の有効性、安全性の向上に資する業務を実施していることを評価したものであり、病棟専任の薬剤師が病棟薬剤業務を1病棟1週につき20時間相当以上実施している場合に、週1回に限り加算する。

日本病院薬剤師会　　薬剤師の病棟業務の進め方より

沼津市立病院　角田一成　提供

病棟薬剤業務の内容をもう少し具体的に言うと

【1】 医薬品の投薬・注射状況の把握
【2】 使用している医薬品の医薬品安全情報等の把握
及び周知並びに医療従事者からの相談応需
【3】 入院時の持参薬の確認及び服薬計画の提案
【4】 2種以上の薬剤を同時に投与する場合における
投与前の相互作用の把握
【5】 患者等に対するハイリスク薬等に係る投与前の説明
【6】 薬剤の投与にあたり、流量又は投与量の計算の実施
【7】 副作用等による健康被害が発生したときの対応
などなど

日本病院薬剤師会　　薬剤師の病棟業務の進め方より

沼津市立病院　角田一成　提供

しかし、いくつか問題が・・

① 人員確保の問題

② 質と内容の問題

③ 病棟スタッフとの業務分担

沼津市立病院　角田一成　提供

まとめ

医療安全の面で、薬剤部では様々な取り組みを行っているが、多くは医薬品を払い出す前の事故を減らすものであって、使用する場所での事故を積極的に減らしているものではなかった。

薬剤師が病棟に在駐することにより医薬品に関する現場のニーズに細かく対応し、医療安全に大きく貢献できるシステムを早急に作っていく必要があるだろう。

沼津市立病院　角田一成　提供